

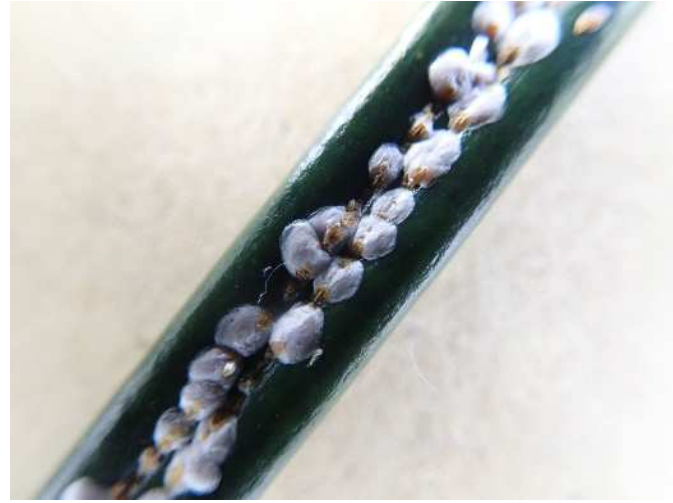
奄美大島でソテツを加害するソテツシロカイガラムシ (*Aulacaspis yasumatsui*)

1 ソテツシロカイガラムシ(以下、本種)による被害の特徴と見るべきポイント



葉裏

裏面から寄生。多発すると表面にも寄生し、白い粉が降りかかったように見える。



雌成虫

介殻はほぼ円形で白色、径は約2mm。殻で覆われているため移動できない。【写真:大島支庁提供】



葉柄部

葉の裏表に寄生していなくても、葉柄部に寄生していることがあるため注意！！



新芽

激害になると新芽にも寄生。

● 被害の進度



微害

葉表面は寄生が少なく、緑色。



中害

葉表面への寄生が多くなり白っぽく見える。カイガラムシが付着していた葉の中軸付近から変色。



激害

葉の一部が枯死して褐色になる。



枯損

葉全てが枯死して褐色になる。株全体が枯死していなければ、翌年度に展葉がみられることも。

2 本種による枯れではない枯れ



旧葉の枯れ

健全なソテツでは、下部の葉が枯れて垂れることがある。これは、ソテツが旧葉を自ら枯らす生理現象によるもの。



塩害による枯れ

ソテツは耐潮性のある植物であるが、海岸線沿いなど風が強く、よく塩が葉に付着する場所では塩害によって葉が枯れてしまうことがある。小葉の先から変色している場合が多い。

3 本種と異なるカイガラムシによる被害



ナガオコナカイガラムシ

葉に白い綿が付いたように見える。雌成虫は体長約5mm、白色で殻を持たず移動できる。



ハンエンカタカイガラムシ

葉に褐色のイボが付いたように見える。雌成虫は体長約3mmで黄～茶褐色、殻で覆われているため移動できない。

